



3位と20位

今年は秋の行事が学校によってまちまちです。中3の修学旅行でも宿泊を伴うこれまで通りの旅行の中学もあれば、鴨川シーワールド日帰りという遠足並みの中学もあります。With コロナでの対応は判断が分かれるところでしょうが、今が誰にとって最も貴重な時なのかも考えながら工夫して行ってほしいですね。

さて、ユニセフ（国連児童基金）が先月発表した、世界の子どもたちの「幸福度」調査報告では、ベルゲンのあるノルウェーが3位、日本は20位でした。「身体的健康」ではトップなのに「精神的幸福度」はワースト2位の日本。新しい友達を作るなどの「社会的スキル」もかなり下位です。なぜこのような結果になったのか、少し探ってみましょう。まずは、先日高視聴率の中で終了したドラマ「半沢直樹」を例に考えてみます。その人気の理由は、初めは敵対していた人々が主人公の理念に共鳴して次々と仲間になっていき、最後にはとうとうラスボスを倒すというその筋書きにみんなが魅力を感じたからでしょう。これってよくある人気アニメの王道のストーリーと一緒に。ところがそれを「現実世界ではありえないよ」と、早々に子どもたちにあきらめさせている何かが日本にはあるのではないのでしょうか。そもそも大人がそう思っているから、大人がドラマの世界だけに夢を託して、結局それが人気ドラマになるという皮肉。日常の生活の中で感じる、ある種の息苦しさから大人も子どもも抜け出せないでいることが想像できます。おそらく日本の子どもたちは、フレームをずらしてみることが苦手なのではないかと思います。物事を見るフレーム、関わる人たちとのフレーム、判断の基準にするフレームをちょっと変えてみれば、新しい空気を吸い込みたり新しい景色が見えたりして少し楽しくなるかもしれません。

それは日頃の学習においても時々感じることです。「自分ではこう考えたんだけど、教科書のやりかたじゃないと学校では〇をもらえないかな」という質問を受けることがあります。教科書というフレームからちょっと離れてみるのも時には良いことですよ。